

H23.10.4 第5回整備検討委員会資料
第4回検討委員会までにいただいた
ご意見などを参考にして事務局素案
として整理したものです。

Ⅰ 基本理念（素案）

（前回の文章）

本市には、長い歴史の中で培われてきた文化的土壌があり、広範で創造性に富んだ芸術文化活動が市民各層にわたって行われている。また、郷土を愛する誇り高い地域文化に根ざした様々な学習活動・交流活動も活発で、優れた文化活動の伝統の継承がなされ、人々に感動や生きる喜びをもたらし、豊かな人生を送るうえで大きな力となっている。

文化会館は、こうした舞台芸術を中心とした多様な市民の文化活動を支え、新たな文化都市を創造する、新市のシンボルとなる中核施設としての役割を担うとともに、市民の芸術・文化性を高め、未来を担う子どもたちの育成をさらに促進し、市民が集い、交流する、未来につなぐ芸術文化の殿堂を目指す。

（短くした文章）

文化会館は、舞台芸術を中心とした市民の多様な文化活動を支え、芸術・文化性を高め、未来を担う子どもたちを育む中核施設として、市民が集い、交流する、未来につなぐ芸術文化の殿堂を目指す。

□ スローガン（素案）

「支える 高める 育てる」芸術文化の創造

II 整備の基本方針（素案）

- 1 市民の舞台芸術を中心とした多様な文化活動を支えるため、様々な目的に対応する現代的な機能を備える、活動の拠点として整備する。

舞台芸術をはじめとする様々な文化活動に必要な現代的機能を備え、市民の多様な活動を支えることが、さらなる文化活動の活性化につながり、新たな芸術文化への創作意欲が高まる。

- 2 市民の芸術・文化性を高めるため、国内外の優れた舞台芸術等に触れることができる、鑑賞の拠点として整備する。

音楽、演劇、舞踊などの優れた舞台芸術の鑑賞機会を提供することにより、感動や生きる喜びをもたらし、感性の伸長による芸術文化のレベルアップを図る。

- 3 未来を担う子どもたちを育て、次代につなぐ市民主体の芸術文化活動を一層促進するため、練習や公演の場として必要な機能を備え、創造の拠点として整備する。

様々な芸術文化活動の日常的な練習や公演の場所を整備することで、子どもたちを含む全ての世代の活発な創造の輪がひろがり、次代につなぐ市民主体の芸術文化活動が一層促進される。

- 4 広い市域の各文教施設と連携し、その中心的役割を担う、交流の拠点として整備する。

合併によって広がった各地域の文教施設と連携することで、様々な文化活動が展開され、多くの人が集い、交流し、こころ豊かな活力にあふれた文化都市が形成される。

Ⅲ 目指す施設の方向性（素案）

- 1 音楽・舞台芸術をはじめ多様な市民の文化活動を支える施設
 - ・響きが良く、様々な音楽、舞台芸術、講演会等に対応するホール
 - ・多様な舞台芸術に対応する十分な広さと設備のある舞台 など
- 2 演奏者や演者が使いやすく、機能性の高い施設
 - ・舞台とりハーサル室、楽屋等との動線に配慮した配置
 - ・機能的で安全性の高い舞台機構、音響、照明等の設備 など
- 3 児童生徒をはじめ、全ての世代の芸術文化活動の発表ができる施設
 - ・多人数の合唱や吹奏楽等の発表に対応するホールや舞台
 - ・複数の練習室やリハーサル室等の整備 など
- 4 利用者にとって快適な設備・空間を備える施設
 - ・快適なホール座席シート
 - ・ゆったりしたエントランスホール、ホワイエ など
- 5 ユニバーサルデザインに配慮した、誰もが利用しやすい施設
 - ・バリアフリー、ユニバーサルデザインの施設設備
 - ・障がい者が安心して利用できる施設 など
- 6 環境に配慮した、地域資源を活用する施設
 - ・省エネへの配慮、自然エネルギーの活用
 - ・地場産木材の活用 など
- 7 維持管理にかかる経費を抑えた施設
 - ・コンパクトで維持管理が容易
 - ・ランニングコストの低減に配慮 など
- 8 市民参加・協力型の運営を目指す施設
 - ・利用団体等の管理運営への協力
 - ・事業企画等への市民参加協力 など
- 9 周辺の文教施設との機能的な連携や都市景観に配慮する施設
 - ・致道館、アートフォーラム等周辺施設との関係
 - ・歴史的建造物やまち並み景観等への配慮 など

IV 施設計画（素案）

1 施設構成

文化会館は、整備の基本方針に基づき、市民のための活動・鑑賞・創造・交流の拠点を目指し、現代的な機能を備えた施設として計画します。

施設は、必要とする機能や性格から、次の4つの部門で構成し、各部門の機能的な連携に配慮した計画とします。

○ホール部門

市民の活動・鑑賞の場

⇒ホール・楽屋・搬入口

○創造部門

市民の日常的な創造の場

⇒リハーサル室・練習室・会議室

○交流部門

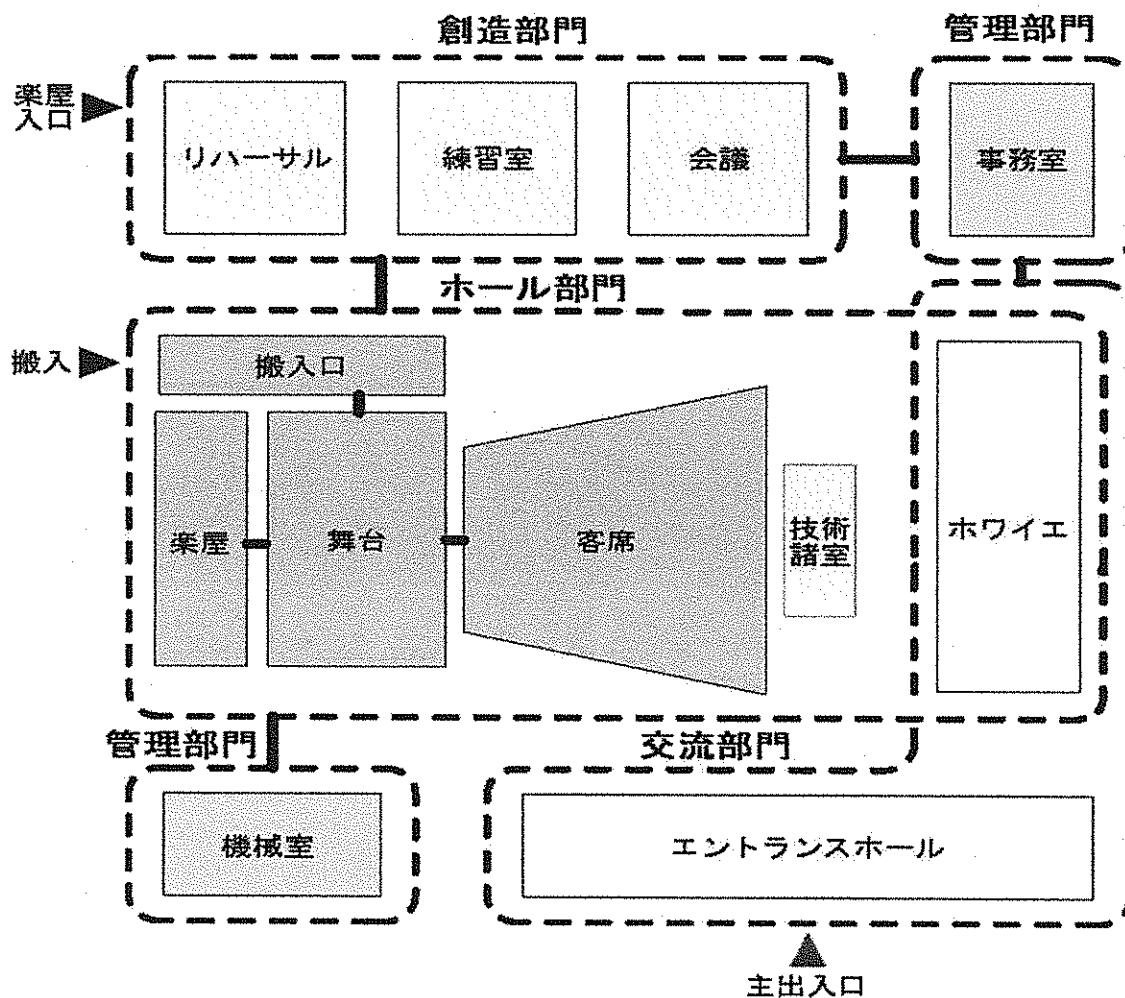
市民の活発な交流の場

⇒エントランスホール・ホワイエ

○管理部門

市民の活動を支える管理の場

⇒管理事務室 等



2 各部門の計画

(1) ホール部門

ホールは、「生の音の響き」を重視し、様々な音楽や舞台芸術をはじめ、講演や式典など多目的に利用できるホールとして計画します。

①ホール客席

客席数は、現在の利用状況や今後の事業運営、敷地条件などを勘案し、 席程度とします。(文化会館 1247 席、中央公民館 472 席)

客席は、見やすさと舞台の一体感を重視し、できるだけ階層を押さえた計画とします。

また、客席イスは、長時間でもゆとりある鑑賞ができる、十分な大きさとし、どの場所からでも見やすい配置や傾斜に配慮します。

車椅子席や介助者席などを設け、だれもが舞台を楽しめるよう配慮します。

②舞台

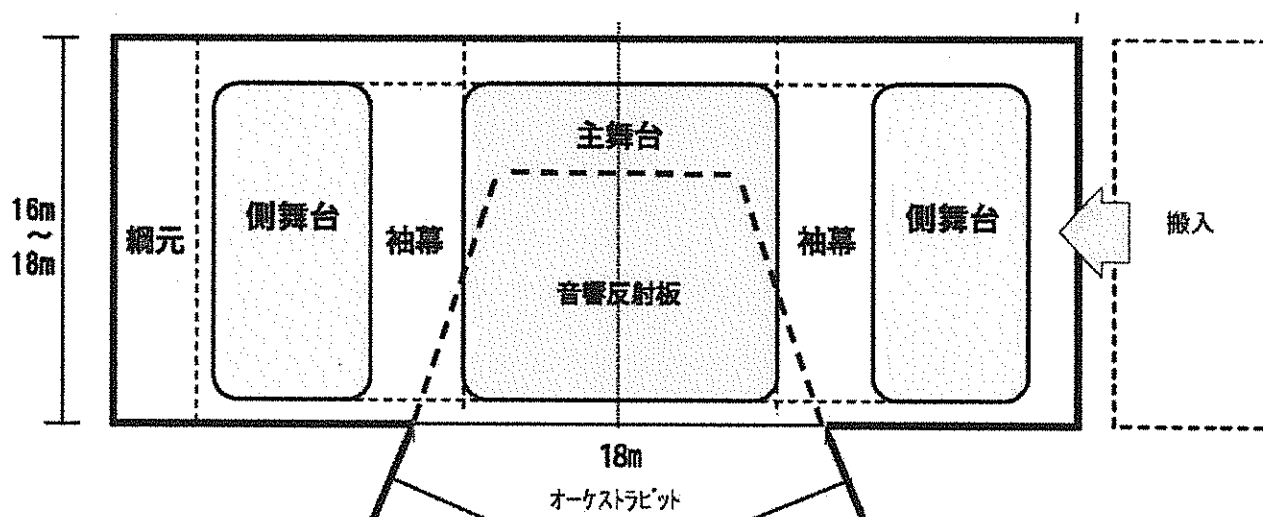
舞台は、多様な舞台芸術に対応するプロセニウム形式とし、クラシック音楽用として音響反射板を設置します。

十分な広さの主舞台と側舞台を備え、客席前部にオーケストラ・ピット迫りを設けるとともに、脇花道の設置を計画します。

舞台開口：間口 18m 程度、高さ 8～12m 程度

主舞台：間口 14.5m 程度、奥行きも同程度の広さを確保

舞台面積：上手と下手の袖合計面積を主舞台と同程度確保



③楽屋

楽屋は、できるだけ舞台の近くの同一階に配置し、出演者等の利便性に配慮した動線及び設備計画とします。

楽屋数は6室程度とし、楽屋ロビー・ラウンジの設置も検討します。また、会議室などを臨時の楽屋として使用できるよう配慮します。

④搬入口

季節風が強い土地柄であり、悪天候での搬出入に苦勞してきた経過があることから、天候に左右されず、大型トラック等から直接、楽器や舞台道具等の搬出入が可能なトラックヤードを配置します。

また、トラックからの荷物の積み下ろしが容易になるよう、高さにも配慮します。

⑤倉庫（その他）

ピアノの保管には、十分なスペースと温度や湿度の管理が重要であるため、専用の保管庫を配置します。

また、舞台設備などの保管のため、道具迫りや備品庫などの配置を検討することにしますが、大きさや配置場所など舞台美術関係者からの意見を参考にします。

(2) 創造部門

①リハーサル室

舞台公演のリハーサルだけでなく、日常的な練習や発表など多目的に使用できるような設備を整え、舞台からの動線に配慮した配置とします。

また、広さの目安として、オーケストラのリハーサルが舞台と同じ配置で可能になるよう考慮します。

②練習室

多様な舞台芸術の日常の練習場所として、防音機能や鏡などを備えた大小2室の練習室を設置します。

また、舞台芸術の練習以外にも、会議や小規模な打合せなどでも利用できるよう配慮します。

③会議室

日常的な会議や打合せ等のため、大小2室程度の会議室を配置します。

(3) 交流部門

① エントランスホール

開場までの時間を屋内で待つことができるよう、エントランスホールを設け、情報コーナーの設置や市民に開かれた場所として活用を図ります。

また、地元ゆかりの音楽家などを紹介する資料展示コーナーなどの設置を検討します。

② ホワイエ

ホールでの公演等の休憩時間に、ゆったりと休める空間を演出するとともに、交流の空間としても位置づけ整備します。

また、展示やミニコンサートなどの実施も検討します。

※トイレは法定個数に対応するだけでなく、女性用と男性用の比率を考慮するとともに、障がい者はもとより誰でも利用できる多目的トイレ(オストメイト対応)も配置します。

(4) 管理部門

① 事務室

施設内への配置や十分な広さの執務スペースを確保します。

また、管理スタッフ用の控室なども必要に応じて検討します。

② 機械室・その他

機械室や設備スペースなど、施設の維持管理に必要な諸室等を配置します。

3 施設規模

施設規模は、下表のとおり各部門に必要な面積に供用部分（廊下や階段など）を加え、およその延べ床面積を_____m²とします。

部 門	必要な施設	面 積
ホール部門	ホール	m ²
	楽屋	m ²
	搬入口	m ²
	その他	m ²
創造部門	リハーサル室	m ²
	練習室	m ²
	会議室	m ²
	その他	m ²
交流部門	エントランスホール	m ²
	ホワイエ	m ²
	その他	m ²
管理部門	管理事務室	m ²
	機械室 等	m ²
供用部分	廊下・階段 等	m ²
合 計		m ²

V 運営計画

1 基本的な考え方

○市民や芸術文化団体等の参画

○専門スタッフの充実

○貸館事業

○自主事業の開催

・鑑賞事業

・創造事業

2 運営体制や組織

■施設の概要の方向性について、文書で提出された意見のまとめ

□ホールのコンセプト

- ・ゆったりと芸術を楽しめるホール。客席は800~1000、大きすぎない方がいい。
- ・上質な芸術に触れることができ、子どもが夢を叶えられるような、種まきのできる場所。
- ・音の響きが良いホール
- ・音のいいホール（これにつきる）聞き心地のいいホール
- ・鶴岡の気風に合った質実剛健ではあるが、独創的でかつ贅沢なもの
- ・人（間）にやさしく幸福感にあふれるホール（ひたれるホール）
- ・クラシック音楽に適する、生音を重視したホールで、多目的な利用に応えられるホール
- ・音響と舞台周りの充実を第一義に考える。
- ・音響の素晴らしいホール（生音が直接聞けるようなホール）
ただし、整備は飽くまでも「音楽優先」で良いが、「演劇」など他のジャンルもあるので可能な限りの折り合いを付けることに努力しなければならないと考えます。その際、一番の課題は天井の「反響板」と「各種バトン」との調整があるように思われます。
- ・人、自然、文化が尊重し合い、調和し、いのち輝くホール
- ・伝統を受け継ぎ、未来への新しい文化を発信していけるホール

□施設概要

○ホール

- ・プロセニウムステージが良いと思う。2階はいらないと思う。車イス席、手話席など、誰もが利用しやすい設備。
- ・客席は、1000～1200席
- ・ワンフロアでゆったりと（1000席でも）
- ・明瞭度のいいホール
- ・座席の配置は千鳥状で段差や傾斜に配慮
- ・客席数は1000～1,200席の間なら可。
- ・客席は千鳥で互い違いに配置する。
- ・1フロアが望ましいが、2階を作るなら横も使う。
- ・奏者の動線の良いホールにする。
- ・防音、温度、湿度管理の徹底を図る。
- ・できることであればワンフロアを志向したい（オケピットは特設方式では）
- ・座席にはゆったりした居住空間がほしい
- ・大ホール（収容人員1,000人～max1,200人）ただし、1,000人の場合はバルコニなどに200人規模の補助席を設置する。
- ・中ホール（収容人数400人規模、既存の鶴中公ホールを有機的に位置づける）ただし、駐車場や舞台設備などの拡充整備を引き続き付帯的に検討する。
- ・小ホール（収容人員150～200人規模）ただし、このスペースは青年達の「ライブ」や日常的には「リハーサル」や「大会議室」として活用する。
- ・人の声、楽器の音などの生音を重視だが、音楽以外にも演劇やダンス、舞踊など広く使えるホール。又、和洋どちらにも対応できるシンプルなデザインのホール。

○舞台

- ・奥行き、幅、袖ともに充分あるステージ。照明を使いやすいものを。
- ・18m四方
- ・手動バトンを中心に（電動のみではなく）
- ・18M×18Mで、高さも現ホールの倍はほしい
- ・舞台裏や両袖に十分なスペースを。
- ・横の反響板の中に演奏者の出入り口扉をつける（反響板の隙間を無くする）
- ・舞台の間口と奥行きは18mの正方形とし、バックステージにゆとりを設ける。ただし、能楽や古典舞踊などの「所作台」は別途仕様として整備する。
- ・人が創るという感覚を大事にして、電気やオートマチックにあまり依存せず、使いやすく、あまり規制に捕らわれずに使える舞台

○楽屋

- ・和室も含め、少なくとも大小4～5室、仕切りで広くしたり、小さくしたりできるようなつくりでしてほしい。全てに水場は必要。
- ・小部屋、大部屋（上敷可、間仕切り）、複数、水回りの充実
- ・合唱団用、オーケストラ用 50人収容（2）指揮者（1）ソリスト（5）
- ・主演格（3人×2室）＝6人、助演格（6人×2室）＝12人、大部屋（10人×3室）＝30人 合計 48人
ただし、これらの部屋は日常的には「練習室」や「会議室」としての併用を可能な限り模索する。
- ・快適で清潔感が保てる楽屋。部屋数、大きさはプロの公演でも耐えうる楽屋に。

○リハーサル室

- ・防音できていること。鏡が大きい方がいい。大きめと小さめのが2つ程度。
- ・小ホール（100～200名）があればいいが
- ・規模的に難しければ、60～80名程度のリハーサル室（複数）
- ・舞台に近い場所
- ・小30人 中50人 大（小ホール）200人
- ・舞台に機能的に配置した「小ホール」を併用する。
- ・最低一つは必要。小ホールとしてつかえれば尚良い。

○練習室

- ・市民が普段借りられるような場所としてほしい。会議や集会など、市民であれば借りられるように。
- ・防音設備
- ・鏡の設置
- ・リハーサル室が充実していれば、不要
- ・一部の人間しか使えない練習室なら必要無いと思うので、作るなら会議室などとして使える部屋。
- ・交流の場として若者が自由に音を出せたり、踊りの練習ができる広場といった感覚の場所が良いと思う。

○エントランスホール、ホワイエ

- ・飲み物とかを座って飲め、ゆったりできる空間。中で待つことができる。一般の人も、中で休めるような、料金が発生しない待合室的な場所。
- ・堂々として明るくゆったりとした雰囲気（自然光などを利用し、いい自然景観を味わうことができる）
- ・エントランスホールは希望ホール程度
- ・ホワイエ（ロビー）は希望ホールの2倍くらい

- ・劇場の顔なので可能な限りの工夫が必要である。特に、天井が低く圧迫感のある状態だけは避けたい。(エントランスホール)
- ・市民の交流機能をもつ文化施設なので、風格のある鶴岡らしい(沈潜の風、質実剛健)空間を考えたい。
- ・市民の交流の場として快適さや景観の良さ、広さなど長く居たくなる工夫が必要だと思う。
- ・ホワイエは広く作り、企画展やホールコンサートなど今までとは違った事もできる場所なら尚良いと思う。又、大型モニター設置、飲食できるなど細かい工夫をも必要だと思う。

○その他

- ・リノリウムを備品として用意してほしい。
(ステージ上の敷くゴムのようなシート。照明がキレイに映る。)
- ・駐車場の確保(立体駐車場が多く、広くする)
- ・搬入口は段差なく、同じ高さで移動できる
- ・車椅子のスペースは最初から確保する
- ・人間にやさしいスロープ機能(移動は全てスロープで)
- ・トイレは十分な数を。指揮者の楽屋にもトイレを。
- ・演奏者の使うトイレの数も十分に。(100人対応)
- ・搬入が経路が短くて、雨天時搬入も楽にできる。
- ・オケピットの確保(手作業で良い)
- ・ピアノは新しいスタインウェイを購入!
- ・ピアノ保管庫の温度、湿度管理
- ・山台など付属設備の充実
- ・飲食スペースは二の次に。
- ・郷土ゆかりの作曲家のピアノ、作品の展示室を。
- ・希望ホール、響ホールなどと棲み分けができるように違った視点を取り入れたり、今まであまり文化会館に関わりがなかった人、低所得者も関われる文化会館にする施設、運営方法の工夫が必要だと思う。
- ・整備に関する総括的な理念として、まずは、舞台そして観客席、付帯設備、景観設備の順で良いのではと考えている。所謂、《名を捨て実を取る》ことが大切かと考えている。加えて、機能的側面では、利用者の動線などに十分考慮したものとする。

文化会館技術職員意見聴取（概要）

日時：平成23年9月15日（木）

13時30分

場所：文化会館事務室

【会館職員】 照明担当、音響担当、舞台担当 3名

【聞き取り】 芸術文化主査、芸術文化係職員

ホール客席

- ・ 客席数 1,200 くらいであれば、ワンスロープが望ましい。客席数を確保するためにどうしても二階席を作らなければならないのであれば、極力一階を大きくして、二階席は四列以上にはしてほしくない。
- ・ 近年 1200 人入る催しは少ない。吹奏楽の大会にしても入れ替わりがあつての数字である。大体が 700~800 くらいの催しなのに、1,500 では多すぎるのでは。他から催し物と呼んで完全な貸しホールとして運営していく、商売を考えたホールにするなら 1,500 必要か。

音 響

- ・ クラシック専用のコンサートホールは、演劇だと声が客席に聞こえづらいこともある。また、カラオケなどPAを使うものは響きすぎて難しい。音響可変装置があればどちらにも使えるが。
- ・ 現会館は、多目的ホールにしては音響がいいと言われているが、オーケストラや吹奏楽が80人編成くらいになると高い音が天井に響いてすごい。PAを使うものだとびりびりと響きすぎる場合がある。
- ・ 音楽ホールであればどうしても客席の体積が今の1.5~2倍くらいになるが、芝居は体積がなくてもいい。喋っている人がある程度自分のところに音が返ってきて、客席が聞きやすければ問題ない。演劇と音楽、どちらに偏るかなのでは。
- ・ 昔はもっと演劇がさかんだったが、今は合唱や吹奏楽等の使用頻度が圧倒的に高いので、方向性としては音楽なのではないか。演劇はそれなりの設備があれば対応できる。

- ・今の状態だと、ボーダーライトの前のところに隙間があいているので、舞台上の立ち位置が前に来ると生音になり、奥に行き過ぎるとこもってしまう。プロセと一体化するとかして隙間をなくし、舞台のどこに立っても聞こえ方が変わらないように。

音響システム

- ・今はカラオケ程度になら館のシステム及び備品で対応できるが、どのくらいの催しに対応できるレベルにするのか。音響の専門業者が入らなくてもできるようにするのであればそれなりの設備が必要であり、それに対応するためには今の職員数では足りない。

舞台の高さと奥行き

- ・酒田は最終的にオケ中心になったのでプロセニウムが高くなった。2階席を作ればどうしても高くなる。天井が高いと角度がきつすぎて舞台に光が届かない場合が出てくるので、シーリングライトの位置を考えていかなければならない。
- ・奥行きはあったほうがいい。ただし狭く使いたいときは仕切ることで対応できるように、中ホリゾン幕を備え、中割幕も二段くらいにしたほうがいい。演出的にもいろいろできるようになる。
- ・奥行きがあると袖幕の枚数もたくさんいる。袖幕のスペースが使えなくなるので、その分を確保した上で、最低ステージの半分くらいの大きさの袖が上手下手どちらかにほしい。

舞台照明

- ・酒田は、ホリゾンライトを後ろから照らしているためホリゾン幕の後ろに無駄なスペースが生じているが、どちらがいいものか。ローホリゾンライトが見えなくていいという人もいるが、アッパーホリゾンライトがないと不便な演目もある。

舞台迫

- ・舞台迫は必要ない。最初の一年二年はそれなりに企画するだろうが、続かないと思う。舞台上に山台が出来るようなタイプの迫ならまだ使えるが、奈落から人が乗って上がってくるものは床が狂ってしまうので良くない。機材を下に下ろすための道具迫なら良い。

オケピット

- ・ 生オケ付のバレエ公演の時などは、ピットに納まったほうが、見た目が良い。その際はステージ上と客席の高さ、ピットの深さの関係を考えること。今の会館はステージが1 mと高く、ピットは深すぎてステージが見えない。かといってステージが低いと、前の方の席だとステージの上に人の頭が見えるのが気になる。

反射板

- ・ 反射板について、吊らずに後ろに格納するタイプ(スライド式)のものについては、セッティングが吊るタイプより大変。演劇に限れば反射板はないほうがいいわけだが、反射板の厚みを薄めにして、舞台の奥行きも16 mくらいあれば、吊っておいでも邪魔にならない。

操作卓関係

- ・ 音響も照明もある程度サブ的に袖で出来るようにまとめてほしい。ボタン関係は、電動は三割が良い。サスボタン(照明用)は別として、美術ボタンは三段階、四段階とかの調整でなく、微妙なスピード調整もできるものにしてほしい。

その他

- ・ 日舞関係からは、今の花道は短いと言われる。幅の問題もある。半端にならないようにすべき。
- ・ 大きい楽器も運べる動線を。
- ・ 倉庫、楽器庫、雨風が入ってこない搬入口。11tトラックが道路からスムーズに入ってこられる位置に搬入口を。
- ・ リハーサル室は最低ひとつは必要。
- ・ ピアノは、ヤマハは交換時期。スタンウェイは調子が悪くてどうしても直らないところがあり、オーバーホールしても治るかどうかは不明。

平成23年度整備基本計画策定スケジュール

- 6月 1日 第1回整備検討委員会
(委嘱状交付、検討結果報告、今後の進め方、基本的な考え方)
- 29日 第2回整備検討委員会 (視察 酒田市民会館「希望ホール」)
- 7月 11日 利用者懇談会 (芸術文化団体等)
- 19日 利用者懇談会 (学校関係)
- 25日 第3回整備検討委員会 (基本理念、機能役割)
- 8月 4日 利用者懇談会 (青年団体)
- 17日 専門委員会 (ホール、舞台設備、音響)
- 29日 第4回整備検討委員会 (基本理念、機能役割、施設概要)
- 10月 4日 第5回整備検討委員会 (基本理念、機能役割、施設概要)
- 10月 31日 第6回整備検討委員会 (施設概要、管理運営、基本計画 (素案))
- 11月下旬 第7回整備検討委員会 (基本計画 (素案))
- 12月中旬 整備基本計画素案のまとめ
- 12月下旬～1月中旬 パブリックコメント (素案への意見公募)
- 2月上旬 第8回整備検討委員会 (基本計画 (案))
- 3月 整備基本計画策定

第5回鶴岡市文化会館整備検討委員会

参 考 資 料

一般的なホールの経費概算比較（客席規模による比較）

試算条件

■想定面積表

客席数	1000席	1200席	1500席
延床面積	7,200㎡	7,600㎡	8,700㎡

■開館日の設定

- ・大ホール稼働日：160日/年
- ・大ホール以外の施設稼働日：220日/年

試算結果

■光熱水費（ランニングコスト）試算結果

客席数	1000席	1200席	1500席
1,000席に対する比率	100.0%	106.4%	115.0%

■工事費試算結果

	1000席		1200席		1500席	
	ワンフロア	2階席有り	ワンフロア	2階席有り	ワンフロア	2階席有り
1,000席に対する比率	100.0%	102.1%	106.0%	108.3%	120.4%	123.0%

舞台の大きさについて

(1) 吹奏楽・合唱

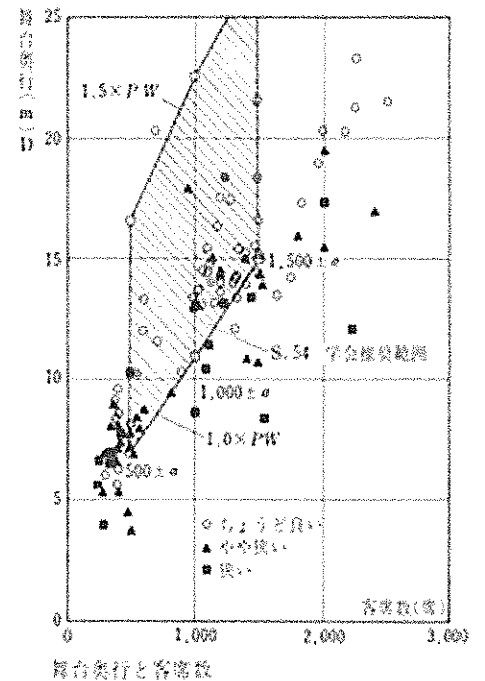
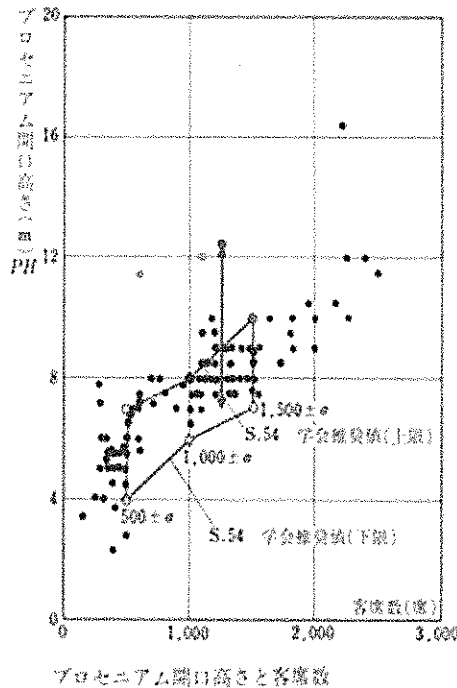
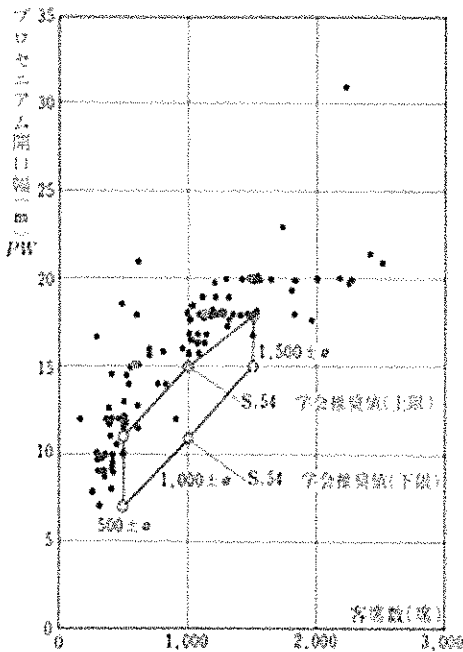
- ・ 巾 18m × 高さは事例から 12m 前後が多い
- ・ 奥行 10m ~ 12m 程度 (別紙 参考レイアウト)

(2) 演劇

- ・ 西洋の演劇劇場の標準は 12m。国内は巾 12.7m ~ 14.6m が多い
- ・ 奥行、高さは演目によって異なるため、様々

(3) 上記のほか建築学会の推奨値 (S54 年)

- ・ 1000 席 : 巾 11 ~ 15m × 高さ 6 ~ 8m × 奥行巾の 1 ~ 1.5 倍
- ・ 1500 席 : 巾 15 ~ 18m × 高さ 7 ~ 10m × 奥行巾の 1 ~ 1.5 倍



● 東京ホール ● 南郷風神文化会館 ● 2ホール ● 3ホール

※出典: 日本建築学会編 多目的ホール設計資料

劇場データ

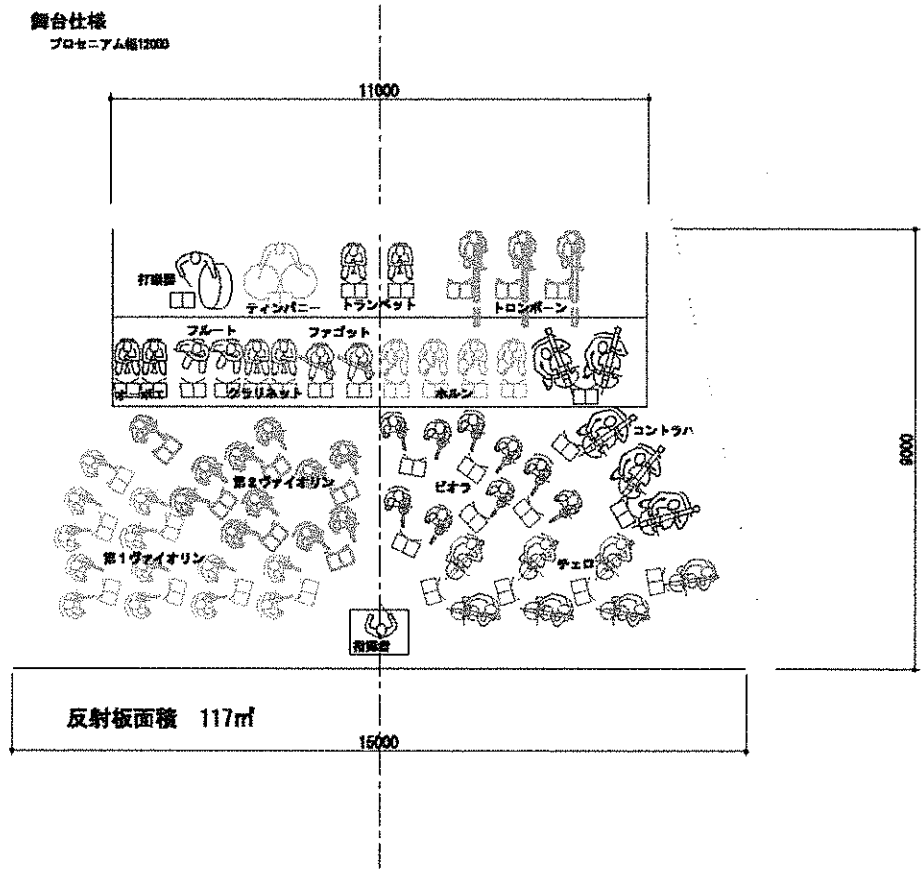
- 1) 劇場・ホール関係諸室以外の面積も含む。
- 2) 便宜上、欧米の主舞台幅は側舞台と主舞台を仕切る遮音扉間の幅。日本のものはプロセニウム開口幅としたので直接の比較は避ける。

※以外、出典：日本建築学会編 建築資料集成

種別	劇場・ホール	敷地面積 (m ²)	延べ面積 (m ²)	客席数(席)				最大 視距離 (m)	空席幅 (cm)	座席幅 (cm)	舞台の広さ				70センチM 開口 幅×高さ(m)	
				1 階	2 階	3階以上	合 計				主 舞 台	上手側舞台	下手側舞台	後 舞 台		
演 劇	ブッパターナル演劇劇場 ⇨81	60000	19400	758	—	—	758	23.0	93.0	55.0	19.0×14.0	13.7×13.0	—	13.5×11.0	12.6×7.0	
	クルーシブル劇場 ⇨80		6750	1013	—	—	1013	18.0	—	—	6.1×7.8	—	—	7.8×3.8	該当せず	
	デュッセルドルフ演劇劇場 ⇨81		1008	—	—	1008	29.0	90.0	55.0	24.0×21.5	15.0×15.0	32.0×15.0	15.0×15.0	15.5×9.5		
	イギリス国立劇場(オリビエ劇場) ⇨82 リトルトン劇場 ⇨82		647 557	518 342	—	1165 899	22.0 20.0	89.0 85.0	53.3 53.3	約17×18 約22×16	約16×16	—	約22×14	13.6×9.0		
芦屋市民会館 ルナ・ホール ⇨84	4288	3954	最大692	198	—	640+890	約18	約18	50.0	25.0×10.8	—	—	—	15.4×8.8		
オ ペ ラ	ダルムシュタット州立劇場 ⇨87	36933	715	235	—	950	26.9	95.0	55.0	24.0×24.9	22.9×16.0	16.6×15.7	17.0×16.0	19.0×8.5		
	ケルン市立オペラハウス ⇨86		899	222	225	1346	32.1	90.0	55.0	25.5×22.0	19.0×22.0	19.0×15.5	18.5×19.0	13.0×8.0		
	ハンブルグオペラハウス		856	265	230	1679	31.0	90.0	55.0	15.0×16.5	11.0×7.5	11.0×7.5	15.0×7.5	12.0×8.2		
	ベルリンドイツオペラ ⇨85		1200	365	335	1900	32.0	85.0	54.0	27.0×21.0	18.0×19.5	22.5×12.0	22.5×23.0	14.6×8.0		
	ミュンヘンオペラハウス		7100	—	—	2123	28.0	82.5	55.0	31.0×27.0	25.0×20.0	22.0×22.0	22.5×20.0	18.0×14.0		
メトロポリタン オペラハウス	—	—	—	3963	—	—	—	95.0	55.0	31.4×27.4	22.0×22.0	22.0×22.0	22.0×20.0	16.5×16.5		
コ ン サ ー ト	愛知県立芸術大学 楽奏堂 ⇨89	400000	3399	782	—	—	782	約26	—	49.0	21.7×11.8	約4×11	約4×11	—	21.7×約7	
	クイーン エリザベスホール ⇨92	12166	—	1106	—	—	1106	約33	—	—	約180m ²	—	—	—	該当せず	
	武蔵野音楽大学 ベートーベンホール ⇨89		3797	891	237	—	1128	約27	83.0	44.0	26.3(楽舞台幅を含む)×12.9	—	—	—	17.0×12.0	
	フィンランディアホール ⇨91		13960	—	—	—	1750	約36	—	—	—	—	—	—	該当せず	
	群馬音楽センター ⇨89		13200	5719	1960	—	1960	約35	—	47.0	43.1(楽舞台幅を含む)×14.4	—	—	—	28.0×9.2	
	デレーンホール ⇨92		13657	—	—	—	2215	約42	100.0	54.0	約210m ²	—	—	—	該当せず	
	ベルリンフィルハーモニー音楽堂 ⇨91		—	—	—	—	2218	約30	最大104	—	—	330m ² (コーラス席を含む)	—	—	—	—
	オーケストラホール ⇨90		—	—	—	—	2600	約37	—	—	—	約190m ²	—	—	—	—
	エイバリーフィッシャーホール ⇨90		—	—	—	—	2741	約39	—	—	—	—	—	—	—	—
	※ テルザホール		—	—	556	250	—	806	—	100.0	52.0	前方19.5(後方14.7)×9.0	—	—	—	高さ14.0
日 本 伝 統 芸 能	歌舞伎座(歌舞伎) ⇨94		30047	13445	1078	526	832	2436	約30	85.0	45.0	26.5×20.7	5.0×20.7	14.0×15.5	—	26.5×6.3
	国立劇場(大歌舞伎) ⇨95	27118		1060	420	266	1746	28.0	90.0	50.0	22.0×27.0	21.0×27.0	21.0×27.0	—	22.0×6.3	
	国立劇場(小歌舞伎・邦舞) ⇨95	630		—	—	—	630	19.0	90.0	49.5	13.6×16.0	8.8×16.0	8.8×16.0	—	13.6×5.5	
	鎌倉能舞台(能・狂言) ⇨96	520		327	170	—	170	約10	該当せず	該当せず	5.0×4.5	該当せず	該当せず	該当せず	該当せず	
	観世能楽堂() ⇨96	2768		2037	542	—	542	約16	80.0	50.0	5.9×5.9	—	—	—	—	
	道頓堀文楽座(朝日座)(文楽) ⇨97	1456		4090	646	334	—	980	約20	—	147.0	18.0×9.0	45m ²	45m ²	—	18.0×5.7
	新富太夫亭(歌舞伎) ⇨97	340		391	150+残数	残数	—	150+残数	約13	—	—	6.7×2.7	—	—	—	6.7×2.0
上野太夫亭(漫談) ⇨97	407.9	576.4	残数	—	—	—	約9	—	—	7.2×2.7	—	—	—	5.4×3.6		
多 自 的 ※	日生劇場(商業劇場) ⇨103	3753	42878 ¹⁾	752	120	462	1334	約31	90.0	50.0	19.9×16.5	73m ²	135m ²	—	19.6×9.6	
	帝国劇場() ⇨102	3825	39130 ¹⁾	1262	688	—	1950	約35	93.0	50.0	20.0×19.0	332.5m ²	344m ²	—	18.0×9.0	
	白河市文化センター(公共ホール) ⇨105	5058	989	342	—	—	342	約20	95.0	48.6	8.5×6.3	60m ²	—	—	8.5×4.5	
	浜出市民ホール() ⇨105	12714	2417	406	394	—	800	23	90.0	45.0	9.2×11.4	70m ²	70m ²	—	9.2×10.0	
	高知県民ホール() ⇨105	5288	11842	1000	500	—	1500	32.2	90.0	48.0	18.0×15.0	91m ²	75m ²	—	18.0×9.0	
	群馬県民会館() ⇨105	20250	13330	1650	350	—	2000	約42	90.0	50.0	20.0×13.5	81m ²	140m ²	—	20.0×10.0	
	岩手県民会館() ⇨106	8662	19032	1286	400	304	2000	約36	90.0	48.0	20.0×14.5	227m ²	112m ²	—	20.0×10.0	
	サンアラザホール() ⇨106	9530	51009 ¹⁾	1586	552	—	2148	37	90.0	45.0	30.7×12.7	102m ²	102m ²	—	30.7×16.0	
	東京文化会館() ⇨107	10370	21234	1282	238	783	2303	37	90.0	48.0	18.0×22.0	124m ²	456m ²	—	18.0×11.0	
	NHKホール() ⇨107	11500	21000	1124	1335	1218	3677	48.0	90.0	46.0	20.0×20.0	400m ²	400m ²	—	20.0×10.0	
	西武劇場(民営ホール) ⇨109	3181	22209 ¹⁾	478	—	—	478	20.0	95.0	50.0	13.7×10.0	84m ²	84m ²	—	13.7×6.0	
	サンシャイン劇場() ⇨109	54688	77385 ¹⁾	650	182	—	832	約21	85.0	46.0	13.0×9.6	30m ²	152m ²	—	13.5×5.0	
	希望ホール	—	—	836	451	—	1287	—	95.0	50.0	18×18	10.5×18	10.5×18	—	18×7.2~12.6	
リアスホール	—	—	652	430	—	1100	—	95.0	50.0	18.5×14.4	9×14.4	9×14.4	—	18.5×13		
南相馬市文化会館	—	—	721	388	—	1109	—	—	—	18×14	4×14	11×14	—	18×12		
Zホール	—	—	984	516	—	1500	—	95.0	49.0	20×18	15×18	8×18	—	20×10		
名取市文化会館	—	—	902	373	—	1275	—	—	—	17.7×17.2	5×15	14×11	20×8.6	12.7~17.7 ×7.2~12		
響ホール	—	—	504	60	—	564	—	—	—	15.1×10.3	6×10.3	6×10.3	—	15.1×11.5		

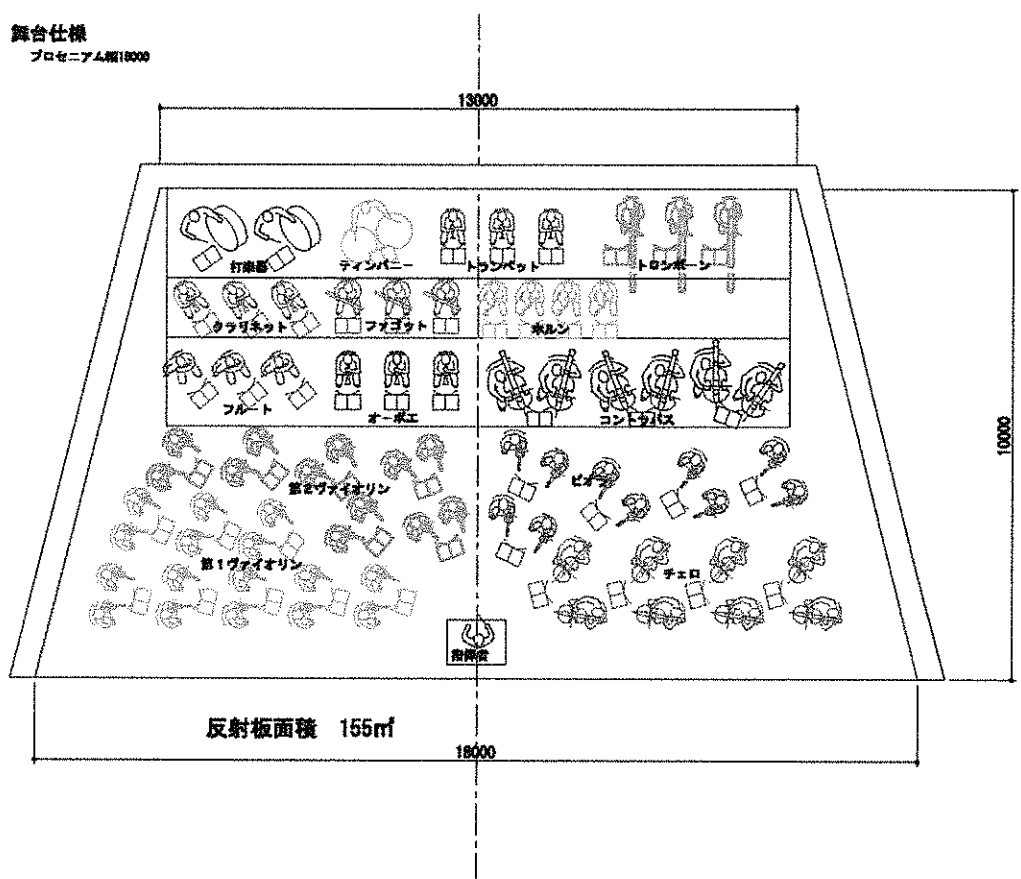
2管編成 (大) 程度

A	第1ヴァイオリン	13人
B	第2ヴァイオリン	11人
C	ビオラ	8人
D	チェロ	7人
E	コントラバス	5人
F	フルート	2人
G	オーボエ	2人
H	クラリネット	2人
I	ファゴット	2人
J	ホルン	4人
K	トランペット	2人
L	トロンボーン	3人
M	打楽器	1人
N	ティンパニー	1人
O	指揮者	1人
合計		85人



3管編成程度

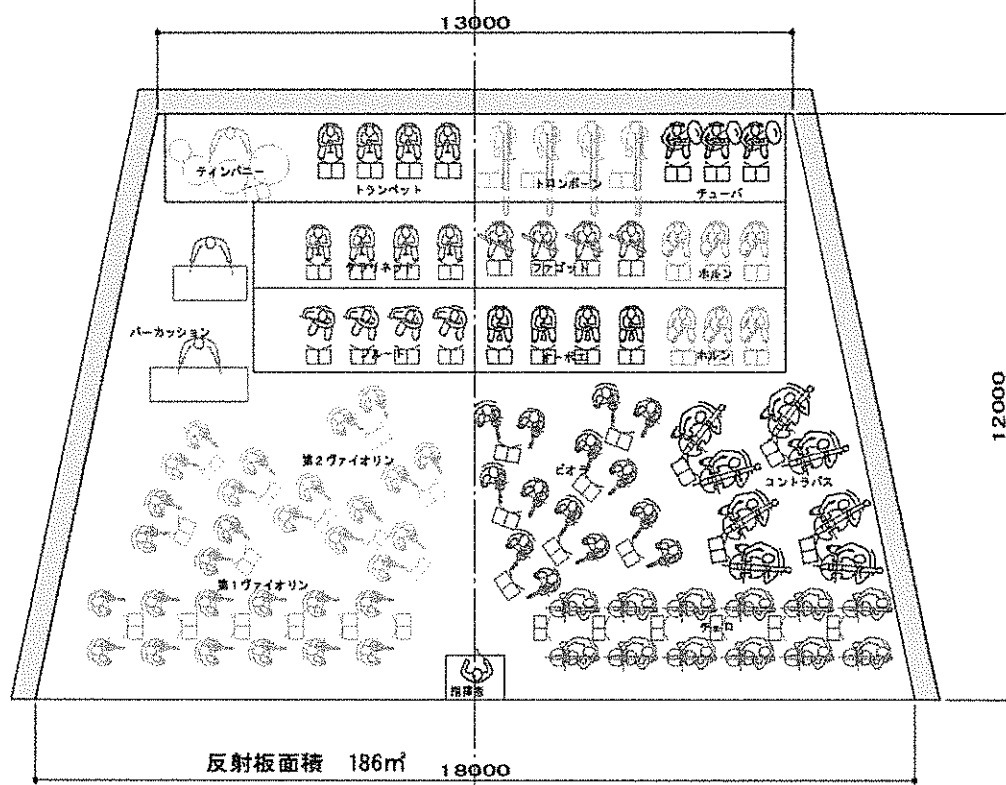
A	第1ヴァイオリン	16人
B	第2ヴァイオリン	12人
C	ビオラ	10人
D	チェロ	8人
E	コントラバス	6人
F	フルート	3人
G	オーボエ	3人
H	クラリネット	2人
I	ファゴット	2人
J	ホルン	4人
K	トランペット	3人
L	トロンボーン	3人
M	打楽器	2人
N	ティンパニー	1人
O	指揮者	1人
合計		78人



4 管編成程度

A	第1ヴァイオリン	16人
B	第2ヴァイオリン	14人
C	ビオラ	14人
D	チェロ	12人
E	コントラバス	8人
F	フルート	4人
G	オーボエ	4人
H	クラリネット	4人
I	ファゴット	4人
J	ホルン	6人
K	トランペット	4人
L	トロンボーン	4人
M	チューバ	2人
N	パーカッション	2人
P	ティンパニー	1人
Q	指揮者	1人
合計		100人

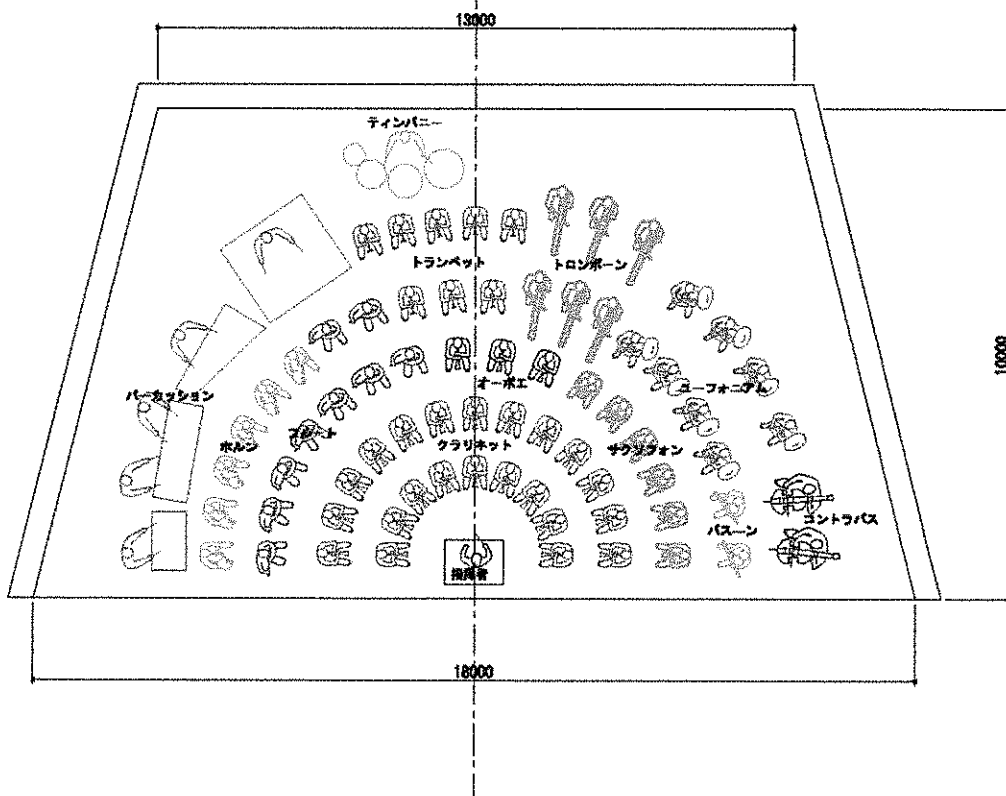
舞台仕様
プロセニウム幅18000



吹奏楽

A	クラリネット	22人
B	フルート	8人
C	オーボエ	3人
D	バスーン	2人
E	サクソフォン	6人
F	トランペット	6人
G	ホルン	6人
H	トロンボーン	6人
I	ユーフォニアム	2人
J	コントラバス	2人
K	パーカッション	6人
L	ティンパニー	1人
M	指揮者	1人
合計		78人

舞台仕様
プロセニウム幅18000



舞台レイアウト参考図②

コンサートホールの音響設計の近年の方向性

今までは、残響時間〇〇秒というのがホールの良し悪しの指標になっていましたが、近年のホール設計では数値的な条件は設けず、下記に示す項目を目標に設計するのが通例のようです。例えるなら音響設計は建築設計と同じで、良い建築といってもそれぞれの主観によるものでそれを数値化はできない。というのが、音響設計者の見解です。

1 コンサートホールに相応しい響き

- 音が近く親密感のある響き、しかも適度な音量感を有すること
- ホール全体がよく鳴り、音に包まれた豊かな響き
- 豊かな低音に支えられた安定感のある響き
- 明瞭さ・繊細さを兼ね備えた響き
- 温かく柔らかい響き
- 演奏者にとって演奏し易い・アンサンブルし易いステージ上の響き
- 演奏および鑑賞の妨げとなるエコーの無いこと

2 コンサートホールに相応しい響きを実現するための要件

- 初期反射音が、時間的にも空間的にもバランスよく、聴衆や演奏者に届くこと
→ コンピュータシミュレーションによる室形状の検討
- 適度な長さの響きを有すること
→ 内装仕上げと残響時間の検討
- 壁・天井が適度な凹凸を有すること
→ 内装仕上げの検討
- ステージに適した床構造
→ 内装仕上げの検討

注)

初期反射音：直接音到来後、およそ 100ms 以内に到来する反射音

残響時間：定常状態に達した後、音源を停止して 60dB 減衰するまでに要する時間

○ 公立文化施設の舞台の大きさ (建設年:H11年以降、席数1,000~1,500)

◎全国公立文化施設名簿((社)全国公立文化施設協会)より

No.	施設名	所在地	建設年月	規模 敷地面積 建築面積 建築延面積 (㎡)	大ホール		備考
					間口 奥行 高さ (m)	座席数 (1,000以上) (席)	
1	岩見沢市民会館・文化センター	北海道 岩見沢市	H15.6	17,095 9,597 12,484	18 16 11	1183	中ホール
2	北上市文化交流センター	岩手県 北上市	H20.10	37,955 9,487 15,093	18 17 11	固定1,310 移動 96 車イス 19	小ホール・オケビ
3	大船渡市民文化会館	岩手県 大船渡市	H15.10	25,613 5,255 9,290	18 17 11	固定1,310 移動 96 車イス 19	小ホール・オケビ
4	酒田市民会館	山形県 酒田市	H16.2	6,919 3,741 8,673	18 18 12	固定1287 車イス 4	小ホール・オケビ・プロセニウム可変
5	南相馬市民文化会館	福島県 南相馬市	H13.11	5,369 3,708 7,536	18 13 12	固定1,105 車イス 4	小ホール
6	鴻巣市文化センター	埼玉県 鴻巣市	H12.7	13,370 4,744 7,873	19 14 11.5	固定1,024 移動 264 車イス 4	小ホール・オケビ
7	杉並公会堂	東京都 杉並区	H18.1	2,829 2,344 9,846	19 10 14	固定1,190 内車イス4	小ホール・残響可変
8	可児市文化創造センター	岐阜県 可児市	H14.3	33,800 8,743 18,410	17 16 9	固定1,019 車イス 4	小ホール・オケビ
9	知立市文化会館	愛知県 知立市	H12.3	23,870 6,998 10,785	15 15 8	固定 998 車イス 6	小ホール・オケビ・ワークショップ室・講義室・工芸室・ギャラリー等
10	三田市総合文化センター	兵庫県 三田市	H19.3	30,529 6,799 10,197	18 17 9~12	固定 974 車イス10 その他16	小ホール・オケビ
11	やまと郡山城ホール	奈良県 大和郡山市	H13.3	14,801 7,353 16,670	16 14 8	固定1,007 車イス 6	小ホール・オケビ
12	新見文化交流館・生涯学習センター	岡山県 新見市	H11.6	12,000 6,901 10,952	18 13 9	固定1,001 内車イス6	小ホール・可動プロセニウム
13	鳥取県立倉吉未来中心	鳥取県 倉吉市	H12.11	26,000 9,590 15,000	18 18 13	固定1,495 車イス 8	小ホール
14	三原市芸術文化センター	広島県 三原市	H19.9	4,054 7,421	18 11 12	固定1068 移動122 車イス19	オケビ・可動式音響反射板
15	高知市文化プラザ	高知県 高知市	H13.10	7,201 6,039 35,888	18 15 11	固定1,081	小ホール・オケビ・仮設花道
16	高松市文化芸術ホール	高知県 高松市	H16.2	13,051 10,603 21,677	18 18 12	固定1,302 移動 126	小ホール・オケビ・残響可変装置等・託児室
17	北九州芸術劇場	福岡県 北九州市	H12.7	22,000 — 21,567	18 15 9	固定1,262 車イス 7	小・中ホール・オケビ
18	ユメシティのおがた	福岡県 直方市	H12.2	7,394 3,311 5,822	16 15 9	固定1,023 車イス 8	小ホール
19	日田市民文化会館	大分県 日田市	H19.8	9,479 5,578 10,009	18 14 12	固定998 車イス5	小ホール
20	都城市総合文化センター	宮崎県 都城市	H18.3	15,590 7,545 16,688	18 17 11.5	固定1,455 車イス 6	中ホール
21	浦添市てだこホール	沖縄県 浦添市	H18.8	130,000 7,692 11,095	16 16 9	固定1,001	小ホール

平均値	間口	17.62 m
	奥行	15.19 m
	高さ	10.74 m

※ 鶴岡市内6地域芸術文化団体の代表者等で構成する、新鶴岡市文化会館建設促進特別委員会では、市内芸術文化団体を対象に、「使い勝手の良い文化会館にするための施設設備についてのアンケート」を実施しました。

去る、平成23年9月4日付、鶴岡市長宛てにそのアンケートのまとめが提出されましたので、次のとおり、文化会館整備検討委員会に報告します。

新鶴岡市文化会館施設設備についてのアンケートのまとめ

新鶴岡市文化会館建設促進特別委員会
委員長 東山 昭子

1. 実施期間 平成23年6月14日～6月25日
2. 対象者 鶴岡市内6地域芸術文化団体舞台部門団体代表者
3. 回答者 60名

鶴岡市芸術文化協会	29名	藤島芸術文化振興会	6名
羽黒芸術文化協会	9名	櫛引芸術文化協会	8名
朝日芸術文化振興協会	2名	温海芸術文化協会	6名

1 舞台について

【どの位の広さが必要か(例-奥行を広く)、音響、照明等】

	内 容	人数	%
1	現在より広く(特に奥行)	36	60
2	現在のままで良い	6	10
3	その他(広さに関する記載なし)	8	13
4	回答なし	10	17

(広さ)

- ・フルオーケストラが入れるステージ幅、楽器をもって待機出来るステージ袖を十分とる [3]
- ・奥行は現在の1.5~2倍位、高さは3倍位
- ・「能」舞台を考えた広さ(舞台は3間四方、それ以上の幅、奥行)
- ・縦・横18m×18m(酒田市希望ホール同様) [2]
- ・中央の格調高い舞台(歌舞伎、文楽、話芸、ダンス等)にも対応出来るような奥行

(せり)

- ・せり上げや回転装置を備えた舞台であれば公演も多彩なものになる [2]
- ・せりは不要だが、舞台下を備品置き場として活用(深さ4メートル荷物用エレベーター要)

(花道)

- ・舞台両脇の花道を現在より広く、長く(特に下手花道) [4]
- ・花道にもせりがあれば尚良い。

(バトン・幕)

- ・美術バトンは手動を主体、綱元は操作盤側
- ・中割り幕を2枚増設、ホリゾン幕を舞台中間部にも新設

(反響板)

- ・反響板に演奏者・ピアノが入り出来るドアをつける

(照明)

- ・照明・音響は広さに適したもの。又、熟知して使いこなせる人材が必要
- ・照明はすべてコンピュータ管理による設備を導入

(音響)

- ・音楽祭のある街にふさわしい音響の良いホールを専門家の手で
- ・残響が1.6秒(満席時)2秒(空席時)
- ・1階後方にガラス窓のない音響室を作って欲しい [2]
- ・ステージにマイクの埋め込みは必要無い

(舞台 その他)

- ・裸足でなければ登壇出来ないようなフロアにしないで欲しい
- ・舞台、床板、正面に対したて板張(能楽) よこ板張(日本舞踊)
- ・ステージ裏は、希望ホール、山形テルサを参考に

2 客席について

【客席数は(現在 1247 席) 配置は(例-現行通り、希望ホールのような2階席 可動式等)】

	内 容	人数	%
1	現在と同様で良い	23	39
2	1,300~1,500	18	30
3	800~1,000	2	3
4	その他(席数に関する記載なし)	14	23
5	回答なし	3	5

(階層)

- ・ワンフロアで2階席をもたない [7]
- ・2階席にしてほしい [12]
- ・ワンフロアが理想だが、やむなく2階席を設ける場合は、必要に応じて椅子を並べる響ホールの方式で経費を抑える
- ・希望ホールの2階席は観賞しにくい [3]

(座席)

- ・1階800、2階500位に分け、小規模な公演でもガラガラにならないような工夫
- ・座席は可動式で有効活用が出来るように [2]
- ・座席をたたら方式(酒田市希望ホール配置)とし、ゆったりと [13]
- ・長時間座っても疲れのないような椅子で、同時に足元スペースを前に広く [10]
- ・障害者用車椅子席の確保(7席程度 希望ホール参考) [2]

(内装)

- ・内装は森林文化都市らしい木質を使用

(ピット)

- ・オーケストラピットは、現状では深すぎるが、せり上がりがあればそれでも可。又奥行を3間位広げる
- ・オーケストラピットの確保 [2]
- ・オーケストラピットの昇降設備は不要で床を外し少し深くなっているピットで可

(客席 その他)

- ・最前列席を今より舞台から離す(3mは空きたい) [2]
- ・シューボックス型
- ・ステージ後方に小さな子と両親が見られる親子ボックス席(ガラス張り) [2]

3 楽屋について

【楽屋数等】

	内 容	人数	%
1	現在より広く数も多く	45	75
2	現在のままで良い	1	2
3	必要に応じて	1	2
4	その他	6	10
5	回答なし	7	11

(配置場所)

- ・楽屋は舞台裏に配置 [10]
- ・楽屋、トイレ、リハーサル室をつなげて欲しい [3]

(大きさや数)

- ・大勢入れる楽屋(仕切りを外すと大部屋になるなど) [4]
- ・下手操作盤近くにメイン楽屋他3室
- ・ゲスト用3室 30人収容3室

(仕様等)

- ・防音設備のある楽屋 [2]
- ・畳敷きの小上がりは不要だが、場合によって薄手の畳を敷ける備えは必要
- ・部屋の一部分が畳敷き
- ・等身大の鏡を設置 [5]
- ・シャワールーム、風呂等の設置 [2]

(楽屋トイレ)

- ・個室楽屋(2~3室)には、シャワー、トイレをつけて欲しい [2]
- ・トイレは広めで2ヶ所以上
- ・楽屋トイレは、オーケストラや合唱団員が利用しやすい数を確保

(楽屋 その他)

- ・進行が分かるモニターの設置 [4]
- ・ぞうり等を入れる箱型が欲しい(化粧台下を利用するなど)
- ・大きくて重い荷物を乗せる鉄骨製の丈夫な棚を設置

4 必要な諸室等について

【リハーサル室、練習室、会議室、待合スペース、食事の出来る部屋等】

	内 容	人数	%
1	リハーサル室(練習室)	34	57
2	会議室	25	42
3	広い待合スペース	13	22
4	小ホール(100~200人)	12	20
5	食事の出来る部屋	13	22

(リハーサル)

- ・会議室、練習室を兼ねるリハーサル室
- ・リハーサル室は鏡張りに [3]
- ・リハーサル室、練習室は楽屋として利用する事を考慮し、舞台裏へ配置
- ・小ホールがリハーサル室を兼ねても良い
- ・リハーサル室は希望ホールのようにしないで欲しい(狭く長い階段を降りてステージへ行く)

(練習室)

- ・練習室は各団体の日常活動として確保する工夫があって良い
- ・ホールと切り離して使える練習室 その場合、ホール入口とは別に練習室用入口が必要

(小ホール)

- ・これからの若者たちの為に100席程度の小ホールを作って欲しい。

(会議室)

- ・出演者の控室になるような大会議室

(ロビー)

- ・休憩時に300名程が集まり談笑出来るロビー
- ・ロビーに軽食がとれるコーナー [2]

(待合スペース)

- ・雨の日、雪の日を考慮して待合スペースを広くとる

(飲食場所)

- ・食事の出来る部屋が欲しい
- ・簡単なキッチンがついた食事ホール

(必要な諸室 その他)

- ・多目的に利用出来る広めの部屋 (練習・打ち合わせ・食事)
- ・託児が出来る部屋 [3]
- ・ピアノ庫、楽器保管室
- ・レストラン(喫茶)、ドリンクコーナー
- ・アーティストラウンジ(希望ホール参照)
- ・クローク

5 その他の設備について

【トイレ、障害者を考慮した設備等】

(トイレ)

- ・観客数の割合を考慮して、男子1に対し女子2 [3]
- ・生活様式の変化に伴い、高齢者にも若者にも洋式(暖房便座・ウォッシュレット) [2]
- ・トイレ内側扉の手持ちかばんをかけるフックを低い位置に
- ・車椅子用はバリアフリーに(希望ホール参照)
- ・2階をつける場合は各階にトイレを
- ・トイレ、障害者を考慮した設備等

(搬入口)

- ・ステージ使用中でも開閉出来るもの
- ・ステージ裏トラックヤードは、10t車が2台駐車出来、スムーズに荷物をおろせるスペース確保
- ・希望ホールの搬入口が良い
- ・舞台側にトラックヤードを設け、荷物が風雪雨の影響を受けずに、安全に搬出入出来るように

(その他)

- ・廊下に手すり
- ・2階又は3階の場合、エレベーターの設置を [3]
- ・ホワイエをゆとりある空間に
- ・喫煙所はしっかり分煙
- ・ドアについては一部自動で他は手動が良い
- ・廊下、扉等も十分なスペースを確保して欲しい
- ・ロビーからステージまではフラットにし、階段の無いようにして欲しい
- ・屋上に太陽光発電を。駐車場の街灯は、太陽光又は小型発電で
- ・イベント予告掲示板を会館外壁に
- ・地元ゆかりの音楽家を紹介する資料室の設置

6 その他

(駐車場)

- ・ 広く余裕を持って安全に駐車出来るように
- ・ 大型バスが駐車出来る
- ・ 出入口は2ヶ所
- ・ 立体駐車場があれば多くの車が駐車出来る
- ・ 出入口や周辺が混雑しないように配慮して欲しい

(デザイン その他)

- ・ 歴史と風格を刻み、未来を拓く誇りとなるシンプルなデザインにし、使いやすさ・安全性・気品のある会館にしてほしい。
- ・ 産業会館(商工会議所・でがんす)を移転出来ないか [2]
- ・ グランドデザインに配慮した外観
- ・ 鶴岡の歴史や伝統、ストーリーを大切にして欲しい(朝暘学校・致道館のデザインを入れる)
- ・ 設計はこの地の気象を熟知した地元業者に
- ・ 管理上の制約、規制などを出来るだけ緩和して欲しい
- ・ 使う側(公演者)の観点だけでなく、観客(来場者)の立場での利用のし易さも十分に考える必要がある(例タクシー乗り場、待合スペースなど)

※ 参考にすべきホール

- 酒田市 希望ホール (ステージ裏 車椅子席)
- 庄内町 響ホール (リハーサル室)
- 山形市 山形テルサ (ステージ裏)
- 東京都 国立大劇場 (楽屋)
- 東京都 日生劇場 (客席)
- 東京都 郵便貯金ホール メルパルク
- 東京都 江戸川区総合文化センター
- 滋賀県 滋賀県びわ湖ホール オペラハウス
- 東京都 新国立劇場 オペラハウス
- 東京都 東京オペラシティ「武満メモリアル」
- 東京都 東京芸術劇場 オペラハウス
- 東京都 東京文化会館 オペラハウス [2]